

子どもと大人

この章では、三重県で実施した「子ども条例に基づくアンケート調査」の結果から、子どもと大人との意識の違いをみるとともに、大人とのかかわり度合いと自己肯定感との関連をみます。

子どもと保護者（家の人）との関係については、よく対話がされており、友だち関係も知っていますが、必ずしも悩みを打ち明けられていない状況もみられます。

「自分が好き」だと思ふ子どもが約半数であるのに対し、保護者の約90%が「子どもが自分自身のことが好きだろう」と思っており、子どもの意識と大きな差が出ています。

また、多くの子どもは、大人から大切にされたり、理解をされたりしていると感じていますが、保護者の意識との間には差がみられ、保護者が思うよりは愛情や理解を感じられていない様子が表れています。

自己決定に関しても、大人が「意見を聞いてくれる」と思っている子どもは多いものの、やや保護者との意識の差がみられます。

愛情や理解、大人からのほげまし、傾聴といった、大人のかかわりや姿勢には、「自分のことが好き」、「夢や将来の希望がある」といった、子どもの自己肯定感との関連がみられます。

1 節 家族との関係

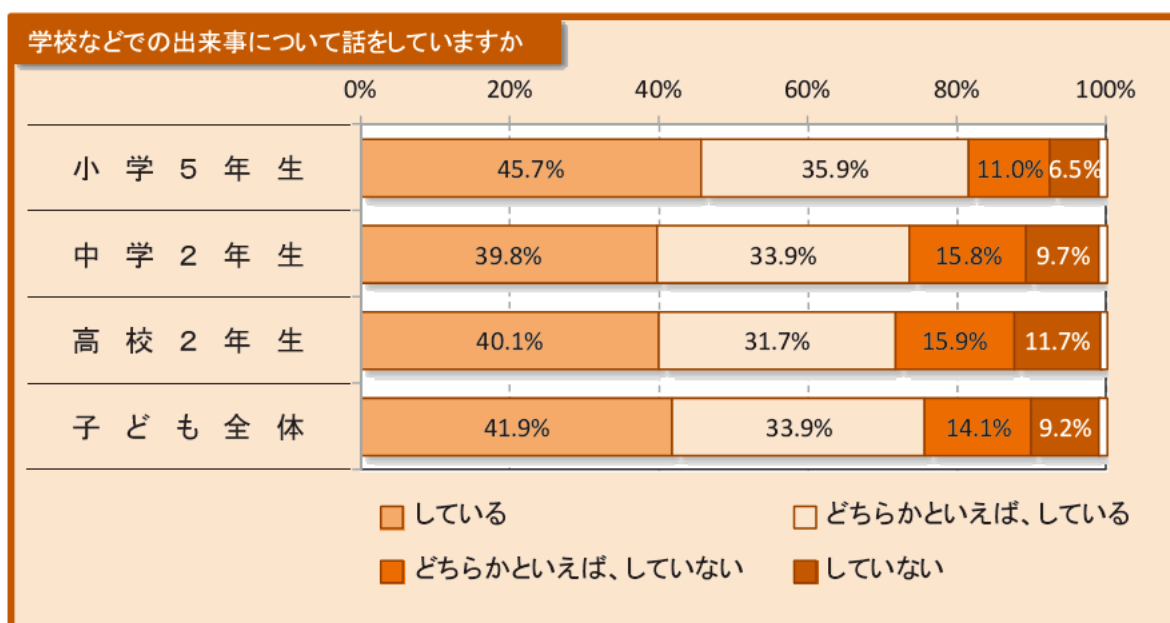
(1) 家族との会話・対話の状況

家族と会話をしている子どもが多いが、学年が上がるとともに会話は少なくなる

小学生の80%以上、中学生・高校生の70%以上が家族と学校などでの出来事について「話している・どちらかといえば話している」と答えています。

一方で、「話をしていない」子どもは、学年が上がるにつれて増え、高校生では10%を超える子どもが家族と話をしていないという状況があります。

図3-1 学校などでの出来事についての会話



資料：「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査」

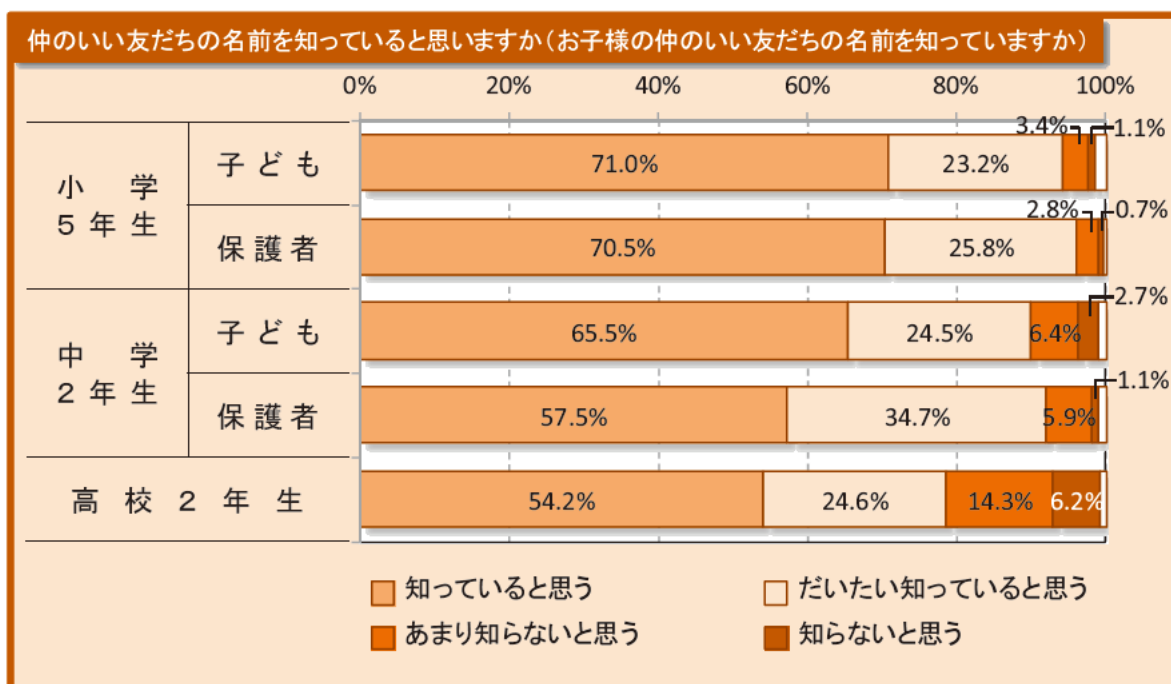
友だち関係は家族の間でオープンになっている傾向がみられる

家の人、子どもと仲のいい友だちの名前を知っているかどうかについて、小学生・中学生では90%以上、高校生でも80%近くが「知っていると思う・だいたい知っている

と思う」と答えています。

保護者の結果と比較しても大差はなく、友だち関係については家族間でオープンにしていることがうかがえます。

図3-2 仲のいい友だちの名前についての子どもと保護者の比較



資料：「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査／保護者調査」

注：高校生については「保護者調査」を実施していない。

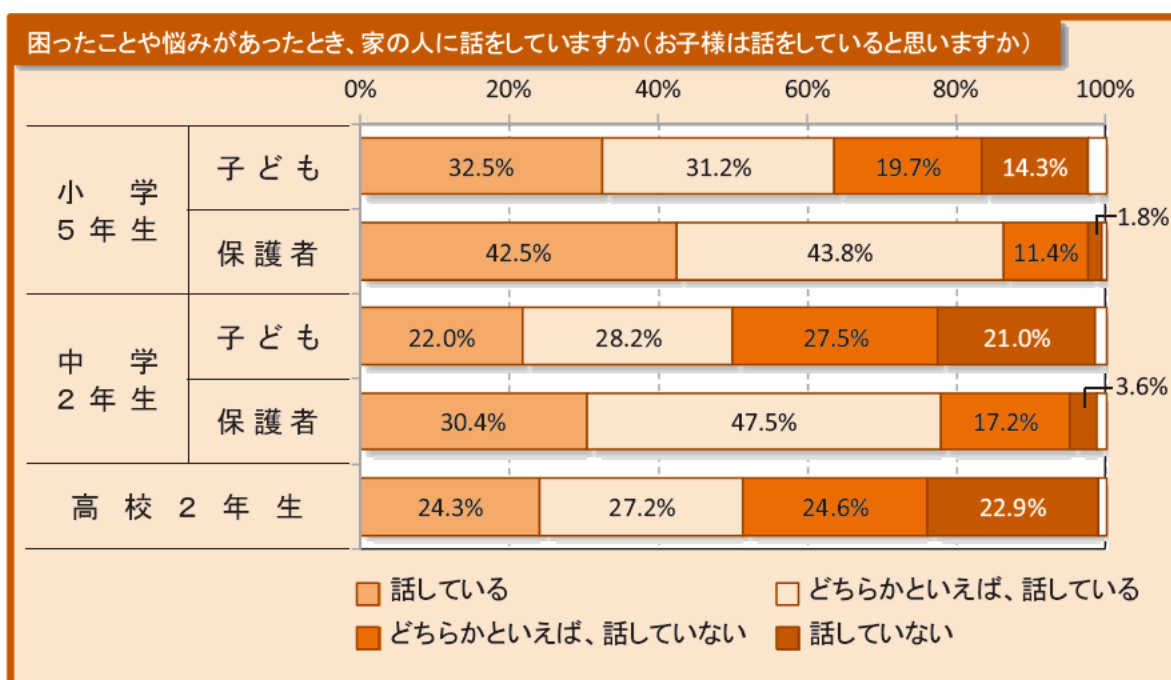
保護者が思っているほど、子どもは悩みを打ち明けていない

子どもが困ったり悩んだりしたときに家族に話をするかどうかについて、小学生では「話している・どちらかといえば話している」が60%を超えています。が、中学生・高校生では50%程度に下がっています。

一方、保護者は、「子どもは話していると思う・どちらかといえば話していると思う」という答えが80%前後となっており、子どもの意識と大きな差がみられます。

保護者が思っているほどには、子どもは保護者に相談していない状況が表れています。

図3-3 家の人への困りごとや悩みの相談についての子どもと保護者の比較



資料：「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査／保護者調査」

注：高校生については「保護者調査」を実施していない。

保護者からの「他の人との比較」が子どもを最もいやな気持ちにさせる

子どもは、家族に他の子どもと比較されたり、生活態度について口出しをされたりすることで特に「いやな気持ち」になるようです。

学年別にみても、全体的な傾向はあまり変わりませんが、中学生では、小学生・高校生と比べて、いやだと思うことがやや多いという傾向がみられます。

図3-5 家の人から言われていやなこと（複数回答・3つまで）

		小学 5年生	中学 2年生	高校 2年生	子ども 全体
家の人 にどんなこと を言われたとき いやな 気持ちに なりますか	他の人とくらべていろいろ言われたとき	38.7%	46.8%	38.7%	41.4%
	寝る時間、起きる時間、帰る時間、整理整頓など、生活についてあれこれ言われたとき	41.2%	40.6%	35.6%	39.2%
	自分がやりたいことを反対されたとき	35.8%	37.3%	34.4%	35.9%
	勉強しろと言われたとき	31.0%	44.8%	31.2%	35.6%
	友だちのことで口出しをされたとき	19.6%	26.4%	25.2%	23.7%
	進路のことをいろいろ言われたとき	8.5%	24.1%	24.1%	18.7%
	その他	5.7%	5.8%	7.6%	6.3%

資料：「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査」

ほっとする場所の1位は「自分の家」、ただし保護者と子どもの認識には差がある

「子どもがほっとする場所」については、小学生・中学生・高校生、また保護者も、「自分の家」が一位となっています。

ただし、保護者は約95%が「自分の家」を挙げたのに対し、子どもでは約85%と、

10ポイントの差が出ています。

また、数としては少ないながら、「図書館」、「ゲームセンター・カラオケボックス」といった項目でも差が出ています。

ほっとする場所が「特にない」と答えた子どもが、どの学年でも2%～3%あり、ここにも保護者の認識との差が表れています。

図3-6 「ほっとする場所」についての子どもと保護者の比較（複数回答・3つまで）

	小学5年生		中学2年生		高校2年生	子ども全体	保護者全体
	子ども	保護者	子ども	保護者			
自分の家	83.3%	94.5%	84.4%	94.5%	84.6%	84.1%	94.5%
祖父母の家	34.3%	38.8%	19.6%	24.6%	12.0%	22.3%	32.0%
友だちの家	20.0%	11.6%	19.2%	14.4%	17.5%	19.0%	12.9%
学校	15.7%	15.7%	17.8%	16.8%	14.0%	15.8%	16.2%
図書館	13.9%	3.4%	8.0%	2.3%	5.9%	9.4%	2.9%
ゲームセンター、カラオケボックス	9.4%	1.6%	7.4%	1.9%	6.6%	7.8%	1.7%
習いごとの教室、スポーツクラブ	9.3%	10.2%	4.8%	7.9%	2.5%	5.6%	9.1%
公園	5.4%	3.0%	3.1%	0.4%	3.3%	4.0%	1.8%
ファーストフードの店、ファミリーレストラン	3.3%	0.9%	2.1%	1.0%	2.4%	2.6%	0.9%
塾	2.3%	0.6%	2.5%	2.0%	0.8%	1.9%	1.3%
コンビニエンスストア	1.7%	0.0%	2.0%	0.3%	1.6%	1.7%	0.1%
フリースクール・フリースペース	0.2%	0.1%	0.4%	0.2%	0.3%	0.3%	0.1%
児童館	0.5%	0.3%	0.0%	0.1%	0.1%	0.2%	0.2%
その他	5.6%	1.6%	6.0%	2.7%	6.5%	6.0%	2.1%
特にない(と思う)	2.3%	0.0%	2.8%	0.3%	2.4%	2.5%	0.1%
わからない		0.2%		0.5%			0.4%

（お子様がほっとする場所はどんなところだと思いますか）

資料：「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査／保護者調査」

注：高校生については「保護者調査」を実施していない。

**「うれしいこと」では、中学生・高校生
が同じ傾向を示している**

「家の人にしてもらってうれしいこと」では、「欲しいものを買ってくれる」、「いいことをしたらほめてくれる」、「一緒に遊んでくれる」、「早く家に帰ってきてくれる」といった直接的な欲求が満たされるという項目では小学生と中学生・高校生とで大きく差が出

ています。

一方で、子ども自身の主体性にかかわる、「口うるさく言わずに見ていてくれる」、「話をよく聞いてくれる」、「自分で決めていいと言ってくれる」といった項目は、どの学年でもほとんど差がみられませんでした。

図3-7 家の人にしてもらってうれしいこと（複数回答・いくつでも）

	小学 5年生	中学 2年生	高校 2年生	子ども 全体	
家の人にどんなことをしてもらえると「うれしいですか」	欲しいものを買ってくれる	50.5%	43.3%	35.0%	43.1%
	いいことをしたらほめてくれる	48.7%	33.7%	27.3%	36.8%
	口うるさく言わずに見ていてくれる	25.3%	36.4%	34.2%	31.8%
	話をよく聞いてくれる	30.5%	30.8%	32.0%	31.1%
	自分がしたことを喜んでくれる	32.5%	27.7%	31.5%	30.6%
	自分で決めていいと言ってくれる	28.1%	30.6%	29.4%	29.3%
	大事なことは相談してくれる	28.2%	21.4%	20.5%	23.5%
	一緒に遊んでくれる	28.8%	7.4%	5.6%	14.2%
	早く家に帰ってきてくれる	21.1%	8.7%	7.5%	12.6%
	その他	2.8%	4.0%	5.0%	3.9%

資料：「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査」

(2) 子どもに関する保護者の悩み

小学生の親は「友だち関係」、中学生の親は「進学」が一番の悩み

子どもについての保護者の悩みとして、小学生の保護者は、「友だち関係」、「成績」、「しつけ」といったことが上位になっています。

一方で、中学生の保護者の約 60%が「進学」で、「成績」でも 50%近くの方が悩んでいるという状況がみられます。

図3-8 保護者の悩み（複数回答・いくつでも）

		小学5年生 の保護者	中学2年生 の保護者	保護者全体
お子様についてのどのような不安や悩みがありますか	子どもの進学	21.3%	59.9%	39.5%
	子どもの成績	31.4%	46.0%	38.3%
	子どもの友だち関係	37.9%	29.9%	34.1%
	子どものしつけ	30.3%	18.2%	24.6%
	子どもの生活態度	26.8%	21.8%	24.4%
	子どもの健康	24.7%	22.1%	23.4%
	子どもの育て方	26.4%	17.2%	22.1%
	教育費	18.2%	20.3%	19.2%
	子どもの就職	11.5%	18.7%	15.0%
	子どもと先生との関係	5.4%	6.7%	6.1%
	子どもと配偶者との関係	4.6%	3.3%	4.0%
	その他	1.8%	1.3%	1.6%
	特に悩みはない	15.2%	10.4%	12.9%

資料：「三重県子ども条例に基づく調査・保護者調査」

注：高校生については「保護者調査」を実施していない。

(3) 子どもの育ちにおける保護者の役割

安心感を与え、支えることと、応援することが保護者の役割と感じている

自分の子どもの成長のために、保護者として担うべき役割については、小学生・中学生いずれの保護者も同じ傾向が出ています。「心の安らぎを与える」が70%以上で最も多く、「子どもの夢や希望を応援する」、「心身の成長を支える」も60%を超えています。

一方、平成20年度に一般県民を対象に実施した「子育て・子育てに関する県民意識調査」における同設問との比較では、時点の違

いはあるものの、当事者である保護者と一般の大人(県民)との傾向の違いがみられます。

保護者への調査で上位に位置した項目は、県民意識調査(平20)でも概ね上位にあります。しかし、「しつけをおこなう」、「積極的に声をかける」といった項目では、県民意識調査が25ポイント以上も高く、逆に、「さまざまな体験の機会を設ける」といった項目では、30ポイント以上も保護者のほうが高いという結果が出ています。

図3-9 保護者が担うべき役割(複数回答・いくつでも)

		小学5年生 の保護者	中学2年生 の保護者	保護者 全体	県民 〔平成20年度〕
お子様がいきいきと育つために、あなたがどのような役割を担うべきだと思いますか	心の安らぎを与える	79.6%	72.8%	76.4%	69.7%
	子どもの夢や希望を応援する	67.3%	65.9%	66.6%	62.3%
	心身の成長を支える	67.7%	64.7%	66.3%	62.9%
	気軽に相談にのる	50.4%	50.2%	50.2%	44.3%
	さまざまな体験の機会を設ける	55.1%	44.6%	50.2%	16.4%
	事故や犯罪から守る	49.1%	42.6%	46.0%	52.1%
	しつけをおこなう	48.3%	40.4%	44.5%	70.0%
	自主的な活動をうながす	44.8%	42.7%	43.8%	30.7%
	社会規範を教える	39.7%	39.9%	39.8%	53.5%
	家庭における役割を与える	39.2%	35.0%	37.2%	52.9%
	積極的に声をかける	31.8%	30.9%	31.3%	57.3%
	有害な情報から守る	28.0%	24.6%	26.4%	31.8%
	スポーツや遊びの指導や相手をする	25.3%	14.6%	20.2%	38.6%
	伝統や文化、風習を伝える	22.3%	17.8%	20.2%	32.4%
	勉強を教える	19.0%	8.7%	14.1%	16.1%
その他	0.8%	0.7%	0.8%	1.5%	
わからない	0.1%	0.7%	0.4%	1.3%	

資料:「三重県子ども条例に基づく調査・保護者調査」

「子育て・子育てに関する県民意識調査」(平成20年度実施)

注:高校生については「保護者調査」を実施していない。

数字の網掛けは、保護者と県民の差が大きい上位3項目を表す。

「大切にされている」と感じている子どもは、自己肯定感が高い傾向にある

普段の生活のなかでの「大切にされている」という実感と、自己肯定感の指標とする「自分のことが好きか」、「夢や将来の希望があるか」という2つの項目との相関をみます。

「大切にされていると感じている」子どもは、70%が「自分のことが好き・どちらかとい

えば、好き」と答えており、「大切にされていると感じない」子どもは、「好き」という回答が10%強にとどまる一方、「好きでない」が70%近くになっています。

また、「大切にされていると感じている」子どものほうが「感じていない」子どもよりも、「夢や将来の希望がある」という回答が30ポイント近く高くなっています。

図3-11 「大切にされていると感じるか」と自己肯定感との相関

		自分のことが好きですか			
		好き	どちらかといえば、好き	どちらかといえば、好きでない	好きでない
普段、生活しているなかで、「大切にされている」と感じますか	感じる [29.1%]	31.2%	39.3%	17.9%	9.3%
	どちらかといえば、感じる [45.7%]	9.1%	41.6%	33.5%	13.3%
	どちらかといえば、感じない [14.6%]	4.8%	17.4%	45.2%	30.6%
	感じない [6.7%]	5.8%	8.1%	16.8%	67.5%
	子ども全体	14.6%	34.0%	29.0%	18.2%

資料：「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査」

		夢や将来の希望がありますか	
		ある	ない
普段、生活しているなかで、「大切にされている」と感じますか	感じる [29.1%]	84.2%	15.3%
	どちらかといえば、感じる [45.7%]	76.6%	22.3%
	どちらかといえば、感じない [14.6%]	68.2%	31.4%
	感じない [6.7%]	57.8%	41.2%
	子ども全体	75.6%	23.1%

資料：「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査」

(2) 大人の理解

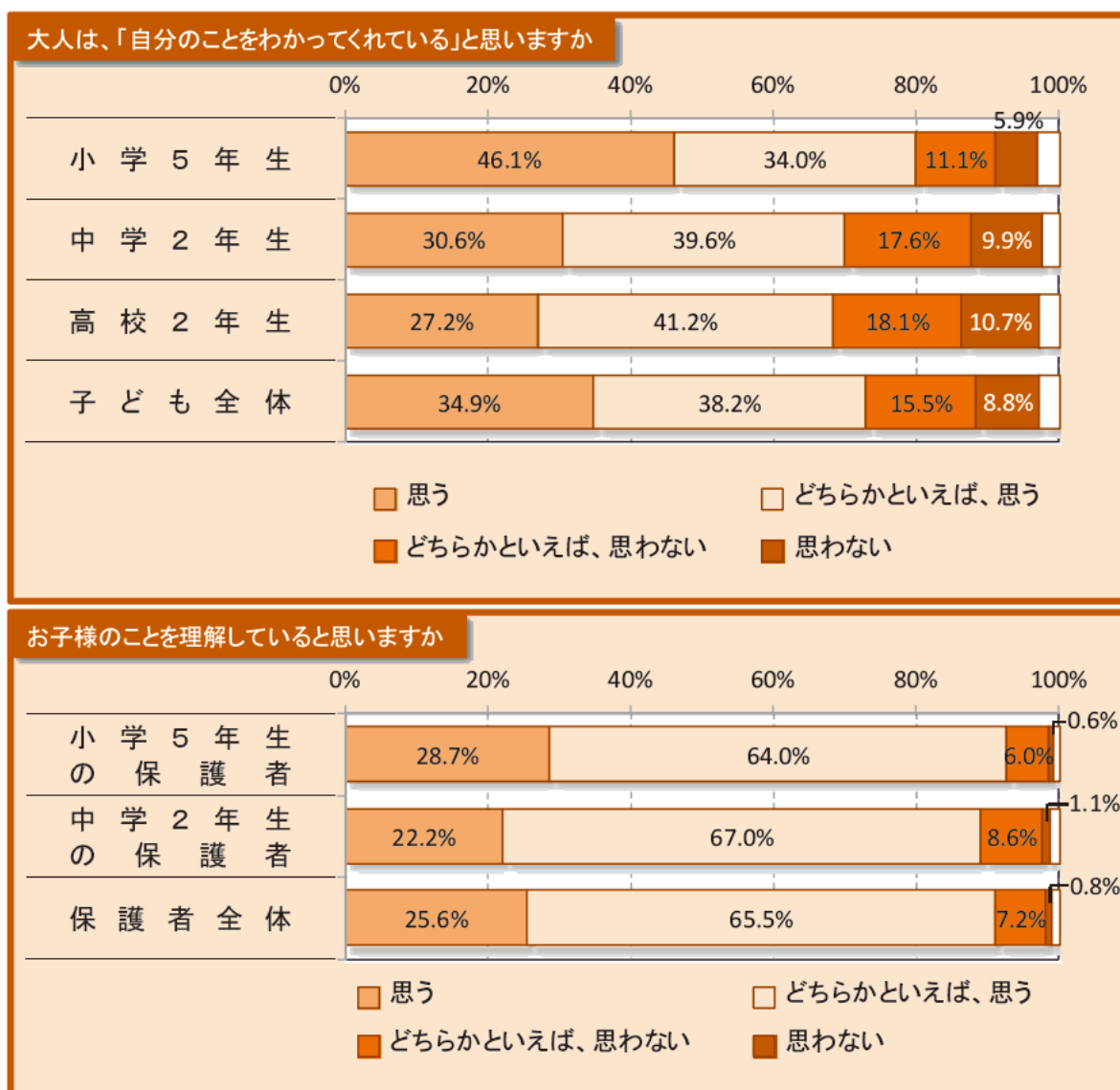
「子どものことをわかっている」と思っている保護者は9割で、子どもの意識とは差がある

「大人は自分のことをわかってくれていると思う・どちらかといえば思う」子どもの割合は、小学生では約80%、中学生・高校

生では約70%となっています。

一方、保護者は約90%が「自分の子どものことを理解していると思う・どちらかといえば思う」と回答しており、子どもと保護者との間にやや意識の差がみられます。

図3-12 子どもへの理解についての子どもと保護者の比較



資料：「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査／保護者調査」

注：高校生については「保護者調査」を実施していない。

「大人はわかってくれている」と感じる子どもは、自己肯定感が高い傾向にある

「大人はわかってくれている」という実感と、自己肯定感の指標とする「自分のことが好きか」、「夢や将来の希望があるか」という2つの項目との相関をみます。

「わかってくれていると思う」と回答した子どもは、70%近くが、「自分のことが好き・どちらかといえば、好き」と答えています。これに対し、「わかってくれていると思わない」と回答した子どものうち、「自分のことが好き・どちらかといえば、好き」という回

答は20%程度にとどまり、「自分のことが好きでない」という答えが50%以上を占めています。

また、「わかってくれていると思う」という子どもの約85%が「夢や将来の希望がある」と答えているのに対し、「思わない」と回答した子どもでは、約63%となっています。

大人に理解されているという実感は、子どもの自己肯定感を高めていくうえで重要な要素であると考えられます。

図3-13 「大人はわかってくれていると思うか」と自己肯定感との相関

		自分のことが好きですか			
		好き	どちらかといえば、好き	どちらかといえば、好きでない	好きでない
大人は、「自分のことをわかってくれている」と思いますか	思う [34.9%]	28.5%	40.0%	19.0%	9.7%
	どちらかといえば、思う [38.2%]	7.2%	39.3%	35.5%	14.8%
	どちらかといえば、思わない [15.5%]	6.3%	23.8%	41.4%	26.3%
	思わない [8.8%]	8.6%	11.9%	22.6%	54.3%
	子ども全体	14.6%	34.0%	29.0%	18.2%

資料：「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査」

		夢や将来の希望がありますか	
		ある	ない
大人は、「自分のことをわかってくれている」と思いますか	思う [34.9%]	84.8%	14.5%
	どちらかといえば、思う [38.2%]	74.7%	24.2%
	どちらかといえば、思わない [15.5%]	67.7%	31.7%
	思わない [8.8%]	62.7%	36.4%
	子ども全体	75.6%	23.1%

資料：「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査」

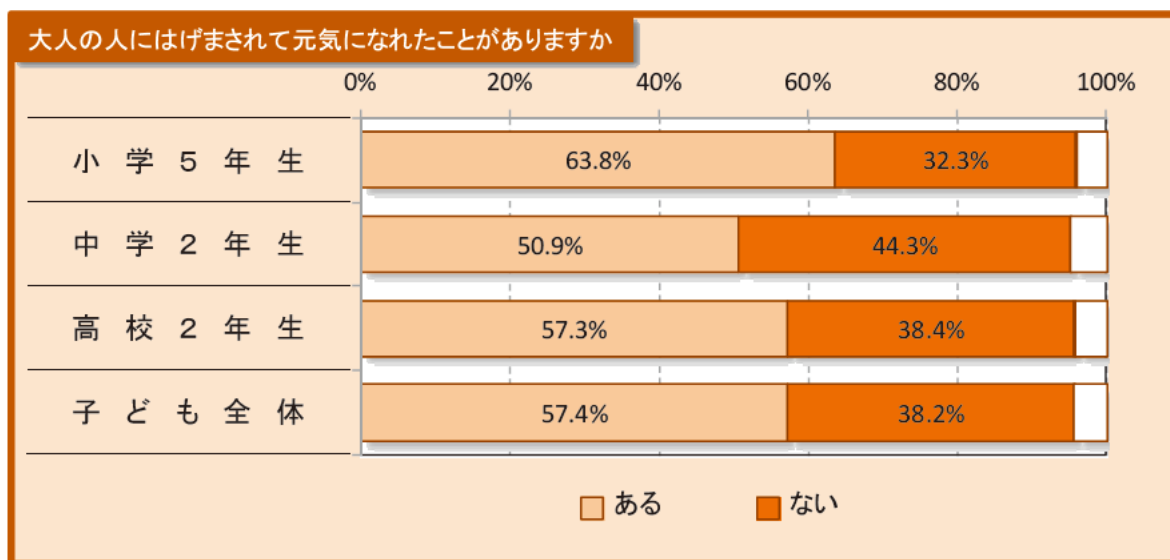
(3) 大人からのはげまし

大人からのはげまされて元気になれた経験のない子どもが4割を占める

「大人にはげまされて元気になれたことがある」子どもは、全体で約57%です。

学年によって差はあるものの、大人にはげまされた経験のない子どもが多いことがわかります。

図3-14 大人からのはげましの経験



資料：「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査」

大人からはげまされて元気になれた経験のある子どもは自己肯定感が高い傾向にある

「大人にはげまされて元気になれた経験がある」と、自己肯定感の指標とする「自分のことが好きか」、「夢や将来の希望があるか」という2つの項目との相関をみます。

「大人にはげまされて元気になれた経験がある」子どものうち、「自分のことが好き・どちらかといえば好き」と答えた子どもは、

約56%ですが、そうした経験のない子どもでは、40%弱にとどまっています。

また、はげまされて元気になれた経験のある子どもの約84%が「夢や将来の希望がある」と答えているのに対し、経験がない子どもでは、約66%と、20ポイント近い差が出ています。

大人のはげましが子どもの育ちに与える影響が見て取れる結果となっています。

図3-15 大人にはげまされた経験と自己肯定感との相関

		自分のことが好きですか			
		好き	どちらかといえば、好き	どちらかといえば、好きでない	好きでない
大人の人にはげまされて元気になれたことがありますか	ある [57.4%]	18.2%	37.9%	27.0%	13.7%
	ない [38.2%]	9.6%	29.2%	33.1%	25.6%
	子ども全体	14.6%	34.0%	29.0%	18.2%

資料：「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査」

		夢や将来の希望がありますか	
		ある	ない
大人の人にはげまされて元気になれたことがありますか	ある [57.4%]	83.5%	15.9%
	ない [38.2%]	65.7%	33.8%
	子ども全体	75.6%	23.1%

資料：「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査」

3節 子どもの自己決定

(1) 大人の傾聴姿勢

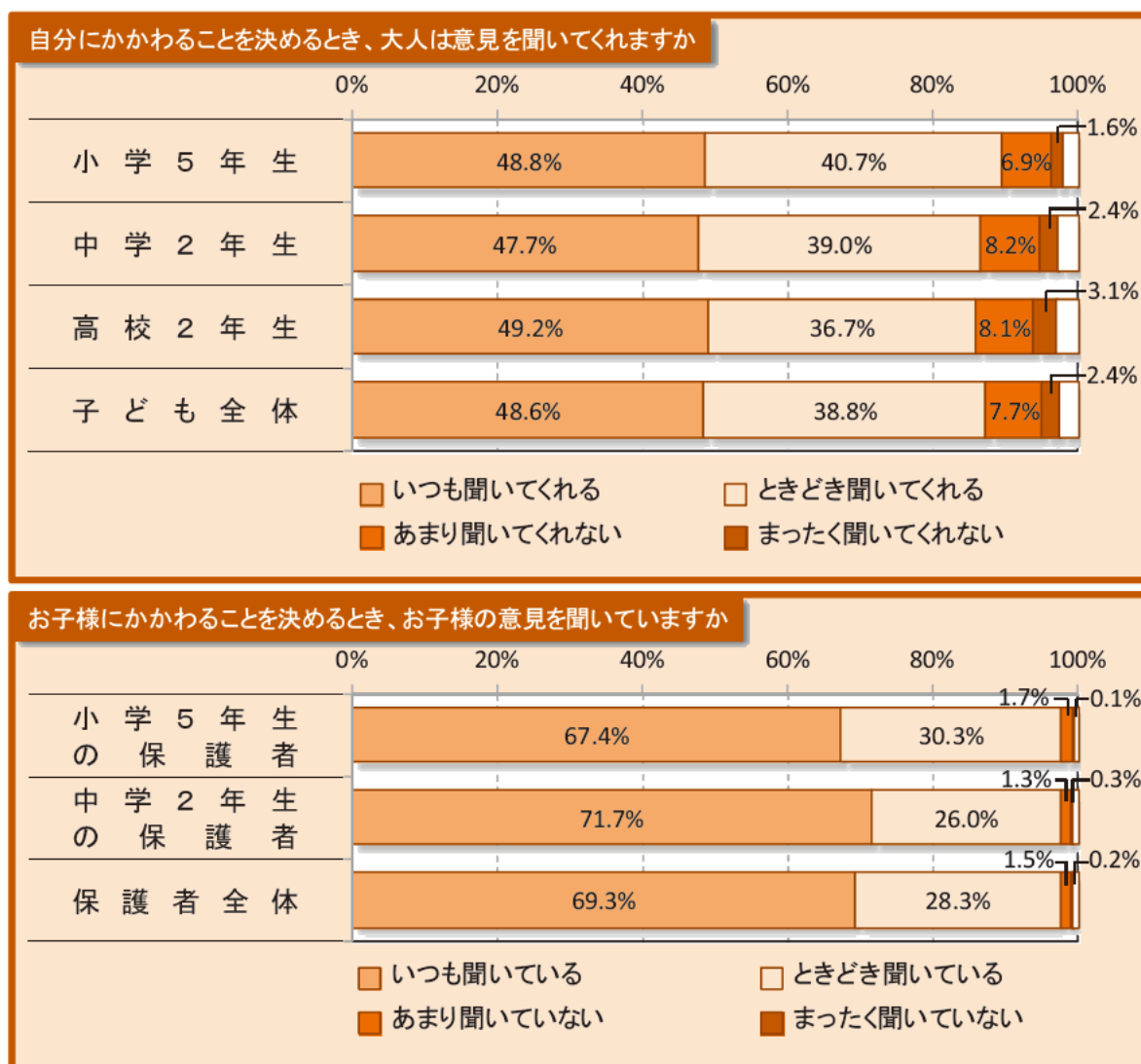
子どもは大人の傾聴姿勢を感じているが、保護者との間には意識の差がみられる

「自分にかかわることを決めるとき、大人がいつも意見を聞いてくれる」と感じている子どもは、小学生、中学生、高校生とも約50%を占め、「ときどき聞いてくれる」という意見を含めると90%近い子どもが、大人の傾聴姿勢を感じていることがわかります。

一方、保護者では「いつも聞いている」という答えが約70%あり、保護者の感覚と子どもの感じ方には差がみられます。

また、「あまり聞かない」、「まったく聞かない」という否定的な意見は、子どもでは合わせて約10%ですが、保護者では2%未満と、両者の意識の差がみられます。

図3-16 大人の傾聴姿勢についての子どもと保護者の比較



資料：「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査／保護者調査」

注：高校生については「保護者調査」を実施していない。

大人に傾聴姿勢を持って接してもらっている子どもの自己肯定感の高い傾向

「自分にかかわることを決めるとき、大人が意見を聞いてくれる」とことと、自己肯定感の指標とする「自分のことが好きか」、「夢や将来の希望があるか」という2つの項目との相関をみます。

「自分の意見をいつも聞いてくれる」と感じている子どもは、60%近くが「自分のことが好き・どちらかといえば、好き」と答えています。これに対し、自分の意見を「まった

く聞いてくれない」と回答した子は、「自分のことが好き・どちらかといえば、好き」という回答が20%程度にとどまり、「好きでない」が60%以上を占めています。

また、「自分の意見をいつも聞いてくれる」と回答した子どもは、「まったく聞いてくれない」と回答した子どもと比べて「夢や将来の希望がある」という項目で20ポイント近く高い結果が出ています。

いずれの項目でも、大人の傾聴姿勢が子どもの自己肯定感と密接にかかわっていることがわかります。

図3-17 大人の傾聴姿勢と自己肯定感との相関

		自分のことが好きですか			
		好き	どちらかといえば、好き	どちらかといえば、好きでない	好きでない
自分にかかわることを決めるとき、大人は、あなたの意見を聞いてくれますか	いつも聞いてくれる [48.6%]	19.6%	37.7%	26.2%	13.5%
	ときどき聞いてくれる [38.8%]	10.2%	35.7%	32.2%	18.8%
	あまり聞いてくれない [7.7%]	7.8%	16.6%	39.9%	33.3%
	まったく聞いてくれない [2.4%]	12.4%	10.5%	11.8%	61.4%
	子ども全体	14.6%	34.0%	29.0%	18.2%

資料：「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査」

		夢や将来の希望がありますか	
		ある	ない
自分にかかわることを決めるとき、大人は、あなたの意見を聞いてくれますか	いつも聞いてくれる [48.6%]	80.4%	19.0%
	ときどき聞いてくれる [38.8%]	73.5%	25.6%
	あまり聞いてくれない [7.7%]	68.9%	30.1%
	まったく聞いてくれない [2.4%]	62.1%	37.3%
	子ども全体	75.6%	23.1%

資料：「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査」

(2) 子どもの自己決定

「子どもが自分で決めたいこと」、「保護者が子どもに決めさせたいこと」で保護者と子どもの意識には差がある

子どもが「自分で決めたいと思っていること」と、保護者の「子どもに決めさせたいこと」では、子どもと保護者の意見の相違がよく出ています。

傾向として、「帰宅時刻」、「就寝時刻」、「テレビ、ゲーム」といった、生活にかかわる身近なことについては、子どもの決めたい気持ち

ちが保護者を大きく上回り、一方で、「進学」、「部活動」、「習いごと」などは、保護者のほうがより「自分で決めさせたい」と考えていることがわかります。

小学生と比較して中学生では自分で決めたい気持ちが強くなり、主体性を増している様子がうかがえますが、小学生・中学生ともわずかに「自分で決めたいと思わない」という意見がありました。

図3-18 自分で決めたり、意見を尊重してほしいことについての子どもと保護者の比較（複数回答・いくつでも）

	小学5年生		中学2年生		
	子ども	保護者	子ども	保護者	
どのようなことについて自分で決めたり（お子様に決めさせたり）、意見を尊重してほしい、尊重したいと思えますか	服そう	33.8%	56.4%	46.5%	58.4%
	習いごと	36.1%	57.1%	19.5%	39.5%
	塾	12.6%	23.4%	16.6%	30.3%
	家に帰る時間	19.2%	7.8%	27.1%	9.3%
	テレビ、ゲーム	37.6%	11.8%	35.8%	13.6%
	寝る時間	33.0%	9.6%	37.9%	16.6%
	進学したい学校	18.8%	50.3%	38.2%	70.3%
	部活動	19.2%	51.4%	38.6%	68.5%
	アルバイト	10.9%	15.2%	17.2%	12.5%
	就職先	18.5%	29.3%	24.6%	28.5%
	つきあう友だち	30.3%	62.3%	43.6%	59.9%
	携帯電話を持つこと	25.2%	3.3%	29.9%	8.5%
	趣味の活動	22.2%	42.4%	32.9%	35.2%
	学校のきまり	10.0%	9.8%	10.8%	10.7%
	祭りなどの地域の行事	11.9%	22.5%	10.2%	17.7%
	地域の児童館や公園などの施設やその使い方	2.2%	5.1%	2.0%	4.5%
	子どもにかかわる社会の決まりなどの重要なこと	3.5%	7.4%	3.1%	8.9%
	その他	2.1%	0.7%	1.4%	0.9%
自分で決めたいと思わない	5.2%	0.0%	4.0%	0.4%	

資料：「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査／保護者調査」

注：数字の網掛けは、学年とその保護者ごとの上位3項目を表す。

(3) 大人から見た子どもの特徴

「元気」、「個性的」だと思ふ反面、「忍耐力」、「社会への関心」は低い評価

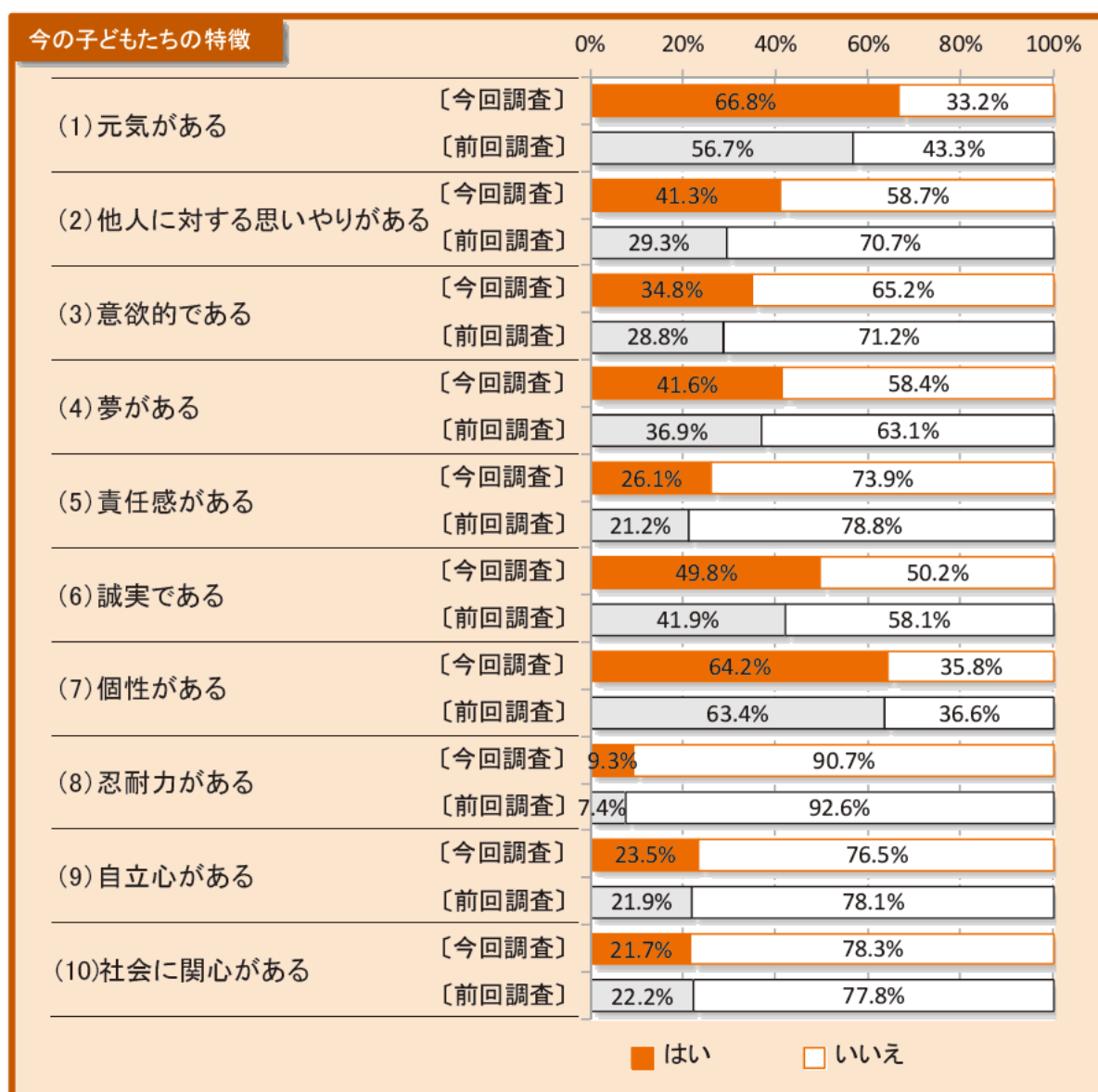
大人から見た今の子どもたちの特徴について、「元気がある」、「個性がある」の2項目で60%を超えています。

一方、「忍耐力」、「社会への関心」、「自立

心」、「責任感」といった項目への評価は低くなっています。

平成20年度に実施した「子育て・子育てに関する県民意識調査」との比較では、ほとんどの項目で肯定的評価が増える結果となっています。

図3-19 大人から見た「今の子どもたちの特徴」



資料：「三重県子ども条例に基づく調査・県民調査」

「子育て・子育てに関する県民意識調査」（平成20年度実施）

注：今回調査（三重県子ども条例に基づくアンケート調査）と前回調査（平成20年度実施の「子育て・子育てに関する県民意識調査」）とを比較するため、無回答や無効回答を除いた有効な回答のみを表した。